

平成29年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	成果と課題	改善方策等	
1 教育課程・学習指導	<p>生徒の学習意欲を高め、目的をもち、主体的に学習に取り組む自立した学習者を育てる。</p> <p>生徒の自立心を育成するために、学校行事、生徒会活動等を活性化させる。</p>	<p>「逆さま歴史教育」の研究の推進と主体的に学習に取り組む態度を育成する授業改善を進める。</p> <p>学校行事をとおして生徒が計画的に行事の企画運営ができるようにする。</p>	<p>生徒の興味関心を深い学びにつなげていく方法を研究・実践し、生徒の学習意欲を高め、家庭学習を習慣化させる。</p> <p>生徒のリーダーシップを育成する職員研修を行い、指導法の習得を図る。その上で生徒向けの研修を行い、行事に積極的に参画させてリーダーシップの育成を図る。</p>	<p>家庭学習の時間が増えたか。生徒による授業評価の項目4授業の充実度(理解度)がすべての教科で3.0を超えたか。</p> <p>リーダーシップ育成のための適切な研修が実施できたか。行事に積極的に参画させる指導ができたか。</p>	<p>各教科で課題やワークシートを工夫し、学習しやすい環境整備に努めた。いくつかの教科で3.0に満たないものもあったが概ね昨年を上回った。家庭学習については、時間が増えたとは言えない。「逆さま歴史教育」については3年生の日本史で授業実践を行い、生徒に主体的に学ぶ姿勢と思考力・判断力・表現力を育むことができた。</p> <p>研修はともに検討段階までで実施には至らなかった。行事では学年を越えた縦の関係を築き下級生を牽引する指導力を養成することができた。</p>	<p>引き続き生徒を主体的に学習へ取り組ませることを目標とした授業改善を全教科で行う。また、家庭学習を習慣化させるためには課題等を課すだけでなく、家庭学習が成績向上につながるという実感を持たせる指導を行う。さらに、学習と進路を関連付けた指導を行っていくことで、生徒に学習の意義を教える。</p> <p>研修については実施に向け検討を継続する。また、隔年の行事開催を想定して、3年生の経験値や指導力を1年生に引き継げる場を作っていく。その中で生徒一人ひとりが達成感を得ることができるような指導を行っていく。</p>	<p>これからの社会を考えた時にIT活用能力、企画力、プレゼン力が求められる。それらを見据えた教育活動を行ってほしい。また、この地域には郷土史家も多く、連携していくこともできると思うので、これからも引き続き「逆さま歴史教育」には取り組んで欲しい。</p> <p>リーダーシップ育成に関しては、部活動の生徒に限らず、多くの生徒に働きかけを広げていった方がよい。</p>	<p>授業の充実度に対しては昨年度より、3.0を越える授業が増えた。しかし、生徒は学習に対しては未だに受身であり、主体的に取り組む姿勢や家庭学習につながる教科指導の面では課題が残った。</p> <p>3年生が中心となり、体育祭を行ったことは生徒のリーダーシップ育成のためには大きな成果であった。隔年の行事開催であるため、毎年、その経験値や指導力が1・2年生に引き継がれていかなことが課題である。</p>	<p>引き続き生徒を主体的に学習へ取り組ませることを目標とした授業改善を全教科で行う。また、家庭学習を習慣化させるためには課題等を課すだけでなく、家庭学習が成績向上につながるという実感を持たせる指導をする。さらに、学習と進路を関連付けた指導を行っていくことで、生徒に学習の意義を教えていく。</p> <p>3年生の経験値や指導力を1・2年生に引き継げる場を作っていく。その中で生徒一人ひとりが達成感を得ることができるような指導を行っていく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>社会性を身につけるために、基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>部活動を活性化し、充実感や達成感を得ることにより、自己肯定感を高める。</p> <p>生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>職員が共通認識をもって粘り強く生徒指導にあたり、継続指導を要する生徒をなくす。</p> <p>部活動加入率の向上めざし、部活動生徒のリーダーシップを養成する。</p>	<p>基準の運用面を検討して、全職員の共通理解を図り、家庭との連携を強化し、改善されるまで粘り強く指導する。</p> <p>部活動紹介や体験入部をサポートし、加入率向上につなげる。部長会での討論をとおして学校全体を牽引できる力のある生徒を育成する。</p>	<p>基準の運用面の検討ができたか。また同一基準で年度末に頭髪・服装・遅刻指導対象者をなくすことができたか。</p> <p>入学時の加入率を維持し、積極的な活動を支援できたか。</p>	<p>登校指導・遅刻指導をとおして各学年で生徒実態の把握、情報共有に努め、昨年度より継続指導者が減少した。改善の見られなかった生徒の指導に関しては家庭との連携に課題が残った。</p> <p>新入生向けの部活動誘導動画を作成する等、各部活が横の連携を図ったことで加入率の向上につながった。リーダーシップの養成については、引き続きの働きかけが必要である。</p>	<p>改善が見られなかった生徒への指導に対しては家庭との連携方法を工夫する必要がある。また、全体には学級懇談会や面談等活用し、学校の方針を繰り返し伝え理解を得ることが必要である。</p> <p>改善点等について見直し、具体的な支援方法を工夫する等の取組を継続して進める。</p>	<p>メディアでもとりあげられ、生徒指導に関しては社会の関心が集まっている。保護者との連携が大切である。指導の意味を説明することで理解してもらえるのではないかと。</p> <p>部活動紹介DVDの作成は良いアイデアである。地域で映像編集に携わっている方に協力をお願いすることもできる。</p>	<p>継続指導が必要な生徒は減少した。反面、改善が見られない生徒に対しての指導には課題が残った。</p> <p>部活動に入部している生徒は、非常に熱心に取り組む、活動も充実している。加入率は、少しずつではあるが上がってきている。また、図書委員会や放送委員会の活動も活発に行われている。</p>	<p>生徒への指導をしていくうえで、保護者からの協力を得ることが必要である。そのためには、職員間で指導についての共通認識を持ち、学校の方針を伝え、理解を得る働きかけを行う。</p> <p>部活動紹介DVD作成等の新しいアイデアを生徒と共に考えながら、部活動や委員会活動を引き続き支援していくことで、生徒がリーダーシップを身につけることに繋がっていく。</p>
3 進路指導・支援	<p>情報を活用し、自分の将来を設計する力を育む。</p> <p>自分の将来に向けて、希望の進路を実現するために、よりよい選択・決定ができる力を育む。</p>	<p>生徒一人ひとりがチャレンジ精神をもって自己の進路意識を高める。</p> <p>希望する進路を実現するために、学年進行に応じたよりよい選択・決定力を育成する。</p>	<p>スタディーサポート、実力診断テスト、実力判定テスト等の客観的資料を活用したり、社会人講話や卒業生講話を聴くことによって、主体的かつ積極的に進路決定に向けての活動に取り組ませる。</p> <p>「総合的な学習の時間」を活用し、特に進路学習会を充実させて、各生徒がより具体的な進路選択ができるようにする。</p>	<p>生徒意識調査や面談等を利用して、主体的かつ積極的に進路決定に向けての活動に取り組ませることができたか。</p> <p>進路決定力を身につけるために「総合的な学習の時間」に積極的に取り組ませることができたか。</p>	<p>2回の社会人講話を通じて多くの生徒が自分の将来像について考える機会となった。また、平成33年度より導入される「高大接続」や「大学入学共通テスト」等の新システムについての学習会等を行い、職員のキャリア教育への意識向上につなげた。</p> <p>「総合的な学習の時間」の進路学習会の内容を各学年で検討し改善することで、生徒に効果的に働きかけることができた。スタディーサポートや実力テストが限定的な活用となり進路決定力を育てるために十分に活用できたとは言えない。</p>	<p>講話の実施時期、人選等の再考を重ね、キャリア意識向上をさらに図っていく。また新システムの導入に向け情報の収集、発信を計画的に行い、生徒の適正な進路実現につなげる。</p> <p>スタディーサポートや実力テストをより効果的に活用するために来年度の計画を作成する。また、スタディーサポート実施後、職員対象の分析会を行い、教科及び学年で生徒へ具体的なサポートを行っていく。</p>	<p>卒業生を講師として招いたことは、生徒が自分の将来像を考えるうえで、先輩として身近に感じることができるといって有効な手段だった。</p> <p>データの有効活用に向けて、来年度は計画的に動くことが必要である。</p>	<p>2回の社会人講話は、生徒が自分の将来像について考える機会となった。実施時期には課題が残った。また、全校生徒対象の講話であり、慎重に人選を行う必要があることも改めて確認された。新システムの導入に向けては、引き続き情報の収集と発信を確実にやっていく必要がある。</p> <p>スタディーサポートや実力テストが限定的な活用となり進路決定力を育てるために十分に活用できなかった。</p>	<p>生徒に主体的かつ積極的に進路決定させるために必要な働きかけとして社会人講話に限らず、説明会等を実施の際には、時期や人選をしっかりと行う。また、これからの「高大接続」や「大学入学共通テスト」等の新システムについての学習会や情報提供を確実に行う。</p> <p>データの有効活用のために、職員対象の分析会を年度当初から計画し、実行する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働 豊かな人間性を育むために、地域等の教育力を活用し、協働を推進する。 地域等に貢献し愛される学校づくりを行う。	地域との協働を推進し、本校の教育力の向上を図る。 地域に貢献する態度を育成するためにボランティア活動の参加者を増やす。	授業や部活動、委員会活動の中で地域の人材を活用する。 ボランティア募集の広報板を整理し、最新の情報を広く生徒に周知する。	地域の人材の活用事例が増えたか。 新たにボランティア活動に参加した生徒が増えたか。	例年地域の方に講師をお願いしている授業に加えて、地域に在住し仕事をしている卒業生にキャリア教育の一環として職業についての講話を行ってもらうことができた。 ボランティア活動への参加者の増加には至らなかったが、単位認定ボランティアでは意識の高い生徒が多く見られた。声をかければボランティアに参加してくれる生徒はいるが、自ら活動しようという生徒は少ない。	これからも、教育活動の中に、地域の人材を活用できる機会を積極的に増やし、効果的な教育活動を行っていく。 ボランティア活動については、地域の要請に応じて、生徒への働きかけを行い、経験させることで意識を高めることを続けていく。	コミュニティ・スクールになることを活かし、地域の人材をより一層活用していければよい。 津久井浜高校の生徒は地域に大変貢献してくれている。感謝している。これからもこの繋がりを大切にしていきたい。	例年の踏襲に留まらず、卒業生を中心に教育活動に参加してもらう人材を増やすことができた。また、料理部も外部から指導者を招き、部活動の充実をはかることができた。 単位認定ボランティアには意識の高い生徒が多くみられた。ボランティア活動に自ら参加しようという意識を育てることはできなかった。	コミュニティ・スクールになることを活かし、地域の人材をより一層活用していく。 ボランティア活動については、地域の要請に応じて、生徒への働きかけを行い、経験させることで意識を高めることを続けていく。
5	学校管理学校運営 信頼・期待される学校づくりを行うために、教育活動に対する意見を尊重し、事故・不祥事ゼロをめざす。 生徒の安全な学習環境の整備を行う。	保護者や地域の信頼・期待をえるために教育活動を公開する機会を増やす。 美化教育と防災教育を推進し生徒の意識向上を図る。	多くの機会を活用して教育活動を公開する。また、ホームページの情報を逐次更新し、最新の情報を提供する。 美化委員会と防災委員会が全校生徒の意識向上を図る活動を計画する。	学校教育アンケート項目1「入学させてよかった(満足度)」が全学年80%を超えたか。 活動計画を実施し、意識向上が図られたか。	全学年とも80%を超え、特に3年は90.4%と学年が進むにつれ上昇が見られた。 分別当番の改善や防災訓練の係分担等、効果的に実施することで、生徒の意識啓発につながった。	耐震及び老朽化対策工事を控え、生徒・保護者のニーズに応える教育活動を展開し、より信頼、期待される学校づくりに取り組む。また、平成30年度コミュニティ・スクールになることを踏まえ、教育活動の公開により、地域に理解してもらう機会を増やしていく。 全校生徒の美化・防災意識の向上を図るために、委員会にリーダーシップを取らせる指導を行う。	学校教育アンケートの内容を再考した方がよい。現在の状態をさらに良いものにするためにどうしたらよいかという視点で調査することが有用である。 高台への避難など積極的な取組は素晴らしい。また、その取組ができる津久井浜の生徒も素晴らしい。	学校教育アンケートの満足度は全学年80%を超えた。しかし、「学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かくおこなっている」と言う項目に関して「よくあてはまる」と回答した保護者は50%に留まった。 美化委員会・防災委員会に所属している生徒の意識を向上させることができた。自主的な活動に繋げていくことには課題が残った。	耐震及び老朽対策化工事を控え、生徒・保護者のニーズに応える教育活動を展開し、より信頼、期待される学校づくりに取り組む。また、平成30年度コミュニティ・スクールになることを踏まえ、教育活動の公開により、地域に理解してもらう機会を増やしていく。 全校生徒の美化・防災意識の向上を図るために、委員会がリーダーシップを取って活動していく指導を行う。